

## 議題「新しい学校の教育について」

(第5回地域協議会における意見の抜粋)

### (1) 設置学科・コースについて

#### 【普通科】

##### 教養実践コース関係

- ・教養実践コースについては、再度協議する必要がある。
- ・教養実践コースは、社会で必要とされる実践的な教養を身につけることを目標としており、将来の進路が決まっていない中学生が進学するにはよいコースだ。
- ・教養実践コースは文科系で、情報ビジネスコースは商業系と思うが根本的な違いが分かりにくい。
- ・教養実践コースでオーラルコミュニケーション、総合文理コースで英語教育の充実といった形がよい。

英語については、英検ではなくTOEICを受けるようにしてはどうか。

健康福祉コースでホームヘルパー1級の資格が取れるようなカリキュラムを組むことはできないか。

三好高校での商業教育の成果を、新しい学校でどのように残していくのか協議する必要がある。

辻高校総合文理コースと池田高校普通科は、それぞれ特色を持つ必要がある。

#### 【農業科】

三好高校の農業や林業をどのように残していくか、国の根幹に関わる農業をどう残していくかが重要な課題である。

食糧自給率や食の安心・安全などの課題がある中、いかに地域に根ざし、地域を支える人材育成ができるかが新しい学校では重要である。

県下に林業関係を専門とする学校は三好高校のみであり、森林環境科が新しい

学校のポイントである。林業関係の進学体制をしっかり作ってほしい。

現在、三好高校では卒業生の多くが就職している。新しい高校の農業科でも就職を考えたカリキュラムが必要である。

農業科を持った新しい学校は、自ら実習を通して価値観を得られるなど、他の高校と違った味わいのある学校になる。

## (2) 総合選択制について

総合選択制については、再度協議する必要がある。

普通科と農業科を統合したスケールメリットを活かすには、普通科において農業が学べる総合選択制がよい。

農業教育では1年生からの積み上げが大切であるので、総合選択制は農業科の枠内がよい。

## (3) その他

池田高校について、新しい学科の設置など、何らかの活性化策を早急に検討する必要がある。

新しい学校の普通科を協議するにあたっては、三好地域の普通科をどうするかということを考えなければならない。少子化により池田高校普通科の学級数が少なくなると進学体制など様々な問題が起こる。